社說

交通機關の改修

日本の交通機關は天候少し〻惡しければ直に不通と爲るの例にして現に過日の風雨の如き左まで甚だしかざるも東海道を始め東北の各鐵道みな不通と爲り電信も破損の箇所多くして交通界は一時暗黑の裡に葬られたり斯の如きは單に年々の出來事なるのみならず一年に二三回も起る例にして爲めに人民の蒙る可き不便損害は少々に非ず貨物は空しく途中に停滯し旅客は餘儀なく逗留する其旅客の中には或は親の急病に赴く者もあり或は若しくは一刻千金の商談に出掛くる者もあり或は又貨物の中に廿數日の停滯に腐敗するものもあり或は商機を失するものもあり可し手近く新聞雜誌遞送の一事に徹するも一朝汽車不通と爲れば臨時に人を派して或は人夫を雇ひ若しくは舟を仕立て變則の交通を開き山を越え河を渡りて運送せざる可らざる其困難は非常にして斯くても尚ほ常の如く配布するを得ず讀者の不便は尋常に非ず交通機關破損の影響大なるを見る可し更らに極端の場合を想像して假に外國と兵を交へたりとせば如何、敵は何所に出沒して何事を計畫しつゝあるや電信不通なれば知るを得ず或は敵は北邊を犯し若しくは南境に侵入したりとの報に接するも汽車不通なれば北邊の兵を南境に集むるを得ず兵機を失するは勿論にして梅雨の候若しくは夏秋の際の如き雨多き季節には到底戰を開くも能はず萬一折惡しく斯る季節に車輪を開くもあらば我國にては鐵道も電信も不通なれば暫く見合はせられたしと敵に向て哀訴せざるを得ず去りとは誠に情けなき次第にして又事變の至に臨みそれば何は兎もあれ先づ交通機關を出且せざる可らず擴張固より大切なり郵便電信局も增設せざる可らず鐵道も延長せざる可らざるは勿論なれども國の大動脈とも云ふ可き東海道若しくは日本鐵道が殺風吹の雨に不通と爲り又た電信が[illegible]の風にもバタ〻倒るゝ樣にては一朝事變に際し又は[illegible]の兵を北邊に集むるを得ず兵機を失するは勿論にして梅雨の候若しくは夏秋の際の如き雨多き季節には到底戰